

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1790100067		
法人名	アサヒ株式会社		
事業所名	グループホームあさひ		
所在地	金沢市薬師堂口8番地		
自己評価作成日	令和7年9月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www5.pref.ishikawa.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人シナジースマイル
所在地	石川県金沢市千木町129番地
訪問調査日	令和7年10月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

あさひの介護理念でもある、「誰も無理をしない、誰にも無理をさせない、地域の人と仲良く」その為に私たちは、人生の先輩達からの学びを日々、大切にしています。「その人らしい暮らし」の為に、利用者、お一人おひとりの、意思と生活歴を尊重します。そして、毎日が心穏やかに笑顔で過ごせるようにサポートしています。介護の専門職として、知識と技術を持って明るく質の良い支援に努めています。

新型コロナウイルスやインフルエンザウイルスによる感染症が突発的に発生することがあり、屋内・外の交流活動やイベント等については以前程活動的に進めることができなくなった。しかしながら利用者様との野菜作りを再開したり、家族の方々や友人との面会機会を少しずつ増やしたりしながら笑顔が絶えないホームを取り戻しつつある。ホームは利用者様と共にスタッフの高齢化も同時に進んでいるが、これまでの経験を活かした「行動の予測」がしっかりと計られており、快適で安全な暮らしが実践されていた。暮らす方々もご家族様も安心できるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～59で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
60	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	67	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
61	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,42)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	68	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
62	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:42)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
63	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:40,41)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
64	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:53)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	71	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
65	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	72	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
66	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	あさひの介護理念は、職員に浸透しており、利用者も無理せず穏やかに安心した生活が送れるように、共有し実践している。利用者が望む暮らしができるように取り組んでいる。	理念は職員に浸透しており、利用者の方も穏やかに過ごす事が出来ている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏には戸板小学校で行われた盆踊り大会に7名参加した。日常的なこととして、職員は、出・退勤時、地域の方にお会いすると、きちんと挨拶するよう、あさひの職員として、自覚を持っている。	近隣の方々との繋がりを大切に日常を過ごしている。職員の出勤、退勤時にもあさひの職員として挨拶を交わすなど、人としてのマナーも一人一人の職員が自覚を持って行動されている。ホームの職員としての想いや意識が高く、利用者の方と職員の方も地域に馴染んで生活している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	令和元年より、子供110番の家の登録が許可されている。登下校の子供たちの見守っている。長田中学校2年生の生徒のキャリア体験は、7月に受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、運営推進会議を開催している。施設内の取り組みや、研修報告、事故事例などの報告をし、地域との繋がりが持てる意見交換をしている。施設内の日常生活状況は、『あさひ通信』を用いて書面で、報告している。	2か月に1回開催しており、今までは地域の避難訓練はなかったが、今年度は来月に防災訓練に参加を予定している。地域の情報をホームも連携し、情報交換を行っている。運営推進会議でも研修結果等を話し合い、あさひの活動について報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者と、密に連絡を取り、日頃から様々なアドバイスを頂きながら、協力関係を築くように、取り組んでいる。	市町村担当者と連携を取り、日頃から様々な相談行い、アドバイスを頂きながら協力関係をしっかりと構築している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設の玄関からの出入りは、自由にできるようになっている。身体拘束防止担当者が、アンケートの実施や委員会を通して、日々のケアの中で、確認を行い、共有し拘束に繋がることのないように、支援に努めている。	身体拘束のない取り組みを実施している。特にスピーチロックについてはホーム内でスタッフそれぞれが場面育成と共有が図れる状況にある。委員会を通して互いに日々のケアの中でも確認し合い、身体拘束にならないように周知徹底も行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止担当者が研修を受講。他の職員もアンケート調査による、意識調査を行い、虐待防止、また、虐待しない、させないことに日々、努めている。利用者を否定せず寄り添って、毎日が穏やかに過ごせるように配慮している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を利用している利用者は1名。生活保護を受けている利用者が2名。権利擁護については、日々の関わりや職員研修で意識付けと理解を深める努力をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者とその家族には、入居前に、できるだけ施設の見学をして頂いている。契約に関しては十分な説明を行い疑問があったら丁寧に対応している。法改定に伴う各種の手続きについては口頭及び書面にて説明し同意を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進委員会は、利用者家族、市町村担当者、地域の方、本社職員、ホームの職員が参加。面会制限がなくなって、面会が多くなり、ご家族意見や要望を聞き、実践の場で活かせるようケアに努めている。外部評価結果は、誰でも、何時でも、自由に閲覧できるようにしている。	利用者様、ご家族様の意見を取り入れながら日々の支援に繋げている。毎月利用者様は法話を楽しみにしておられ、地域の住職様にも来て頂く等、利用者様の心に優しい機会を設けるなど、寄り添った支援が運営に反映されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	利用者の状況の変化に気づいた時、記録に残して職員間で情報共有を行っている。不都合な事案が発生した場合は、職員間で話し合い、最善な方法を見つけて質の高いケアに努めている。また、医療機関の受診時には情報共有シートを用いて情報提供を行っている。	利用者様の情報を記録しながら共有し、要望や希望を反映できるような運営体制となっている。利用者様の状況に合わせて食事時間を変更して対応する等、柔軟な対応を実行している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は法人と連携し、職員個々やチーム全体への指導や意見を求める機会を設け意欲向上に繋げている。勤務希望や公休、有休、休憩時間はきちんと取得している。各自が向上心をもって働けるように、日々、取り組んでいる。働き易い職場である。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人が指定する規定研修以外にも、主催する種々の研修を掲示し、参加を奨励している。出席した研修の内容を報告し発表は職員会議で書面や口頭で伝えて意見交換している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者及び職員は、同業者が参加する協議会に参加して、入居状況、困難事例などを相談する機会を作り、意見交換や気づきを共有し、質の向上に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の不安や心配は、当然のことで、本人の気持ちに寄り添いながら、自分史や家族からの状態を活用して本人の人となりを知るように心掛けている。利用者との信頼関係を築けるように、努めている。利用者が困っていることを、本人と一緒に考えて共感し安心できる支援に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いを受け止め、コミュニケーションを取ることで、職員との信頼関係を築こう努めている。家族の思いは、対応に活かすようにしている。利用者の状態や家族の要望をケアプランに反映し支援に努めている。入居後は、こまめに生活状況を家族に伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の要望も取り入れて、できる限りの支援に繋げるようにしている。記録や職員の情報等から利用者の状態を知り、利用者が今一番必要としていることは何かを把握しながら支援に努めている。必要に応じて、訪問診療や訪問歯科の説明も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者個人の能力や意欲と健康状態に応じて、無理強いないで、家事参加等の協働姿勢を取っている。掃除や食器の片付け、洗濯物たたみ食事作りや、おやつ作り等を、スタッフと共に楽しみながら行い、その人らしさを大切に暮らし、良い関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に、生活状況を伝えている。面会ができない家族は、日々の生活の様子を電話で報告し、家族の意見や要望も取り入れたケアプランを作成し支援に努めている。文章はメールや郵送で対応している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	特に誕生日など特別な日に、面会を積極的に受け入れ、自室で、大切にしてきた馴染みの人と関わって、楽しく過ごせるように努めている。知人の美容師さんに、長年にわたり、ボランティアで、髪の毛をカットして貰ったりと関わりを大切にしている。	誕生日会等、ご家族様に面会の声掛けをするなど積極的な支援を実施している。ヘアカットは毎月来ていただいており、利用者様がリフレッシュできる機会ともなっている。又、ペットに会いたいと自宅に戻る機会も利用者様の希望により行っている。ドライブに出かけて気分転換を図り、外部の方との交流する機会を増やしながら支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が、孤立しないように、居室から出て仲間と関わりを持ち、新聞折りや洗濯物たたみ等、利用者同士が多く関われる環境の中で協働し合えるよう支援している。また、テレビや新聞で得られる情報等の話題を職員も交わり、笑いや憩いの場を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者が退居となった場合は、新しい居住先に介護サマリーを提供している。また、必要に応じて電話で対応している。亡くなられた場合は、管理者、職員が代表で葬儀に参列したりと関係が続けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来るだけ利用者本位の時間を持てるようにし、お一人おひとりの関わりを大切にしている。ケアプランを活用しながら、その都度対応している。	利用者様の要介護度が高くなってきてはいるが、状態や年齢に変化があっても、利用者本位を確認と共有しながら一人ひとりと向き合い対応している。管理者は職員と話し合いができる機会を設け利用者様の状態や意向の確認をし、その人らしい生活ができるように積極的に関りながら対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	特別に思い出がある品などを身近に置き環境整備し、その人らしい生活を続けている。家族の写真や記念日にプレゼントされた品物を見て喜んでいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	好きな時間に、好きなことが出来る環境と支援に努めている。利用者の心身状況は、介護記録に詳細に記録している。特に把握すべき箇所には、蛍光ペンを使い下線でマークして、職員間で情報を共有し対処に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	施設での生活がどうでありたいか、本人の要望を聞き、利用者の現状を把握して計画を立て、担当者会議でアセスメントし、本人にとってより良い支援を提案している。家族の情報も含め、職員で意見交換をして、具体的な計画を立て実践している。	ホームはスタッフ全員で情報を共有しながら利用者様の状態を良く把握しており、定期的なプランの見直しを実施している。状態悪化にもその都度対応しプランを変更したり、ご家族様に確認しながら透明性のあるケアにて支援を進めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者のいつもと違う変化に気付いたら、記録に残して、アセスメントし、職員間で共有している。緊急な計画が必要となった場合は、期間内であっても随時見直し、追加や変更を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	知り得た知識やアイデアを職員間で共有し、実践に活かしている。利用者の安心と安全を保ち、利用者各々の特徴を考慮して、自尊心を傷つけないように配慮した上で、柔軟なサービスの提供を心掛けていく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月に1度のボランティアでの法話は、正信偈や童謡を歌ったりして、生き生きとした時間を過ごしている。次の法話の日を心待ちにしている。買物やお花見ドライブなど、季節に応じた活動も行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医や協力医療機関の受診、訪問診療等本人や家族の希望に応じて継続できるように支援している。受診日を把握して、受診前日には、情報共有シートを記載し、スムーズに送り出せるように心掛けている。薬は、宅配して貰っている。	かかりつけ医は近隣の医療機関にて対応して頂いている。ホームに入居するに当たり、馴染みの医師、医療機関がある場合には変更せずに継続した医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の職員と利用者の情報を常に交換し、相談しながら受診の手配やケアに努めている。入院、または、看取り介護を希望している家族には、ご家族と主治医、看護と介護が連携し支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した場合は、協力医療機関の医師及び看護師又はケースワーカー等と連携し、こまめに情報交換を行い、適切な医療を受け早期に退院できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重度化した場合や終末期の対応について説明している。利用者の状態が悪化した場合には、重度化や終末期のあり方について、改めて家族、かかりつけ医、職員などと事業所での対応について話し合いの方針を共有している。その人らしさを尊重できるような要望確認と、心のこもったケアに努めている。	今年度は終末期を3人の看取りを経験しており、同じ日に亡くなった方もいらしたことがホーム一丸となり本人、ご家族様を支えてきた。新しい派遣職員の方にも看取り介護の重要性を伝え、心のこもった対応ができるよう説明を行い、その人らしさを尊重できるよう支援体制を整えている。終末期について職員間で振り返りも行い、心のこもった対応ができるよう周知徹底している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内で起きた、事故発生や急変時は、介護師と看護職員が連携し、慌てず落ち着いて迅速に対応ができるようにしている。		
35	(13)	○緊急時等の対応 けが、転倒、窒息、意識不明、行方不明等の緊急事態に対応する体制が整備されている	緊急時対応マニュアル、連絡網が整備され職員全員に周知している。緊急時には、誰もが、迅速に対応できるようにしている。所在不明時の対応はスピード感を持って行えるよう、状況によっては家族の了解を得て速やかに、警察とタクシー会社と連携が取れるようにしている。担当医と管理者に、いつでも連絡がとれ指示や相談が出来る体制になっている。	緊急時対応マニュアルをしっかりと整備作成されている。職員間でも緊急時に対応できるようにマニュアルを周知している。離設する方は現在は居ないが、マニュアルを作成し、その都度対応できるように準備もしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○バックアップ機関の充実 協力医療機関や介護老人福祉施設等のバックアップ機関との間で、支援体制が確保されている	協力医療機関との支援体制が、何時でも確保されている。急な受診や往診の依頼にも、スムーズに対応が来ている。必要時には、訪問診療・訪問看護の訪問歯科の体制も来ている。看取り介護も行っている。	他ホームから利用者様に移ってこられたりもするが、医療機関との関係性は良好にあり、その際にもスムーズに対応して頂けるよう支援体制を確保している。訪問診療、訪問看護、訪問歯科の支援体制も整えている。	
37	(15)	○夜間及び深夜における勤務体制 夜間及び深夜における勤務体制が、緊急時に対応したものとなっている	夜勤勤務体制は、各ユニット1名ずつであるが、利用者の緊急対応が必要な場合等は、夜勤者同士が、お互いに協力し助け合っている。かかりつけ医、家族、管理者に連絡し指示を仰いでいる。必要時に救急要請等の対応が出来るようにマニュアルに示し、迅速な対応に努めている。	夜間に関しても医療機関との連携が整っており、夜勤者同士が互いに連携し合い、助け合いながら新人職員でも夜中の対応することが出来る。緊急時のマニュアルも対応に有用となっている。	
38	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練は、消防職員の立ち合いの他に、水害や地震などを想定した訓練も定期的に行っている。11月16日（日）に戸板小学校で実施される校下の防災訓練に当施設が参加を予定している。地域との協力体制は、まだまだ不十分なので、地域の方や近隣の方々に根気強く働きかけていく。	今年度は石川県が行ったシェイクアウト訓練を追加実施した。机の下に潜りこみ、身を守る訓練にて実施。近隣に用水があり、水量は調整できるので水害の際には上に避難するようになっている。充電器を準備し、法人内でも連携出来るように体制整備をしている。地域との協力体制は充分ではないため、今後の課題でもあるが、積極的な働き掛けを行っていく。被災して来られた方の支援も継続して行っている。	
39	(17)	○災害対策 災害時の利用者の安全確保のための体制が整備されている	消防署への自動通報装置を設置し、消火器、スプリンクラー等の消防設備点検を年2回実施している。災害時の備蓄品として、蓄電器、水や缶詰、カセットコンロ等を準備し、年に1度は、賞味期限切れや使用期限切れをチェックして、必要に応じて商品の入れ替えをしている。	昨年発電機を設置し、蓄電器も設置している。水や缶詰、カセットコンロなど、必要なものを見直しを行いながら準備している。食材に関しても期限を確認しながら備蓄している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
40	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴や排泄の際は職員間で連携し、プライバシーの確保に努めている。日頃から、何気ない言葉で利用者のプライドを傷つけないよう対応に努めている。	利用者様個室のプライバシーを確保している。訪室する際にはノックをする等配慮している。トイレもプライバシーの確保ができるように職員間で連携しながら言葉かけを行い尊厳を守るケアに努めている。個別での暖簾等は感染等リスクもあり中止した。	
41		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の言葉や行動のサインを見逃さないように意識している。自己決定することを大切にし関わりを持って支援している。本人が望む生活が送れるように努めている。		
42		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者に置き換えて支援している。利用者の自己決定を基本にし無理強いせず、その人らしさを大切に本人の思いに柔軟に対応できるよう努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者が、衣服等の選択も自己決定が出来なくなりつつある現状で、おしゃれが出来るように、職員がコーディネートしている。コロナ過のなごりで、髪の毛のカットは、職員がボランティアで行っていて、家族への料金の負担の節約になっている。		
44	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	彩り良く目で見て楽しめるように、盛り付けに工夫している。食事介助が必要な利用者が多いため、職員と利用者は食事時間をずらして取っている。食後は、利用者が食器洗いや食器拭き等の家事仕事は、定着して行っている。立ち仕事が困難な人は、座って出来る作業をお願いしている。	週に4回は利用者様と一緒にスーパーに買い物に行き、できること、楽しむことを増やしながら日々支援に努めている。食事を通して利用者様同士やホーム全体のコミュニケーション向上を図り、笑顔あふれる支援を実施している。本人希望の食事を提供する等、充実した食事状況も伺えた。	
45		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事以外にも必要に応じて水分確保に努め、嚥下状態が良くない人には、トロミ付きやゼリー状にして提供している。食べる意欲のない方には、食事形態を工夫したり、医師と相談し、エンシュアリキッド等の栄養剤を使用するなどして栄養確保にも努めている。		
46		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床後、就寝時、食後の口腔ケアを実践している。自力で困難な方には全介助し、口腔内の清浄化に努めている。嫌がる利用者には無理強いない。状況を見ながら適宜に行い、または、訪問歯科を利用し、定期的に衛生士による口腔ケアチェックをして貰っている。必要に応じて歯を治療することもある。		
47	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄パターンを知り、日中は、なるべくパットの汚染に繋がらないように努めトイレでの排泄を心掛けている。落ち着きがなくなってきた利用者には、トイレ誘導を試みて不穩を回避している。排泄時の一連の動作がわからない利用者には、その都度、対応と支援をしている。	調子が悪くなりハビリパンツを使用する際でも状態が改善した場合には布パンツに交換するなど、柔軟な対応にて支援している。声掛けもプライバシーを損なわないよう注意を払いながら支援している。	
48		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者の排便状況を把握している。何日も排便が無い時は、多めの水分補給と、乳飲料を飲んで貰う等して、排便コントロールが上手くいくように、気を配っている。それでも排便の効果が無い場合は、医師と相談し、下剤を使用したり、看護師が座薬の挿入や排便の様子を観察している。		
49	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の体調を把握し、入浴の声掛けを行っている。入浴を拒否する人には、時間をおいて、再度、声を掛けたり、入浴とは違う話題から誘って工夫している。また多量の排便があり、汚染した場合は、入浴の時間以外でも、シャワー浴をして清潔を保っている。	入浴は週2回から3回実施しており、回数に関してはご利用者様の希望や状況に応じて支援している。清潔保持ができるように、又、本人のリフレッシュ機会となるよう努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の日中の活動に応じて、ゆったりした自分だけの時間を過ごせるように、自室で過ごせるよう対応している。ベッドでお昼寝することも自由であり、食事やおやつも自室で食べる事もあり、リラックス出来ている。生活のリズムが整うように配慮している。		
51		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	嚥下しにくい錠剤や散剤は、服用しやすい形状に変更したりゼリーで服用できるようにしている。利用者の症状変化に留意し薬の使用目的や作用・副作用について確認し職員で共有している。薬包に日付を記入し誤薬や落薬がないように、注意を払っている。		
52		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の介護度が上がりつつある現状で、簡単に思える事でも作業の継続が困難になってきている。椅子に座って、おしゃべりしながら、タオルを畳んだり、もやしのヒゲ取り等、楽しく笑いある場を設けている。好きな塗り絵を楽しんだり、音楽を聴いたり、新聞を読んで過ごしている。		
53	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブやお花見に出かけることの出来る利用者は、限られているが、可能な範囲で出掛けている。菖蒲園に出かけ、紫陽花や菖蒲の花を見て楽しんできた。出掛けられない利用者は、玄関先で日光浴をして貰っている。夏には、戸板小学校で行われた盆踊り大会に7名が参加した。ホームの畑で、ミニトマトやキュウリの成育や収穫も楽しみの一つである。	ホームの庭で野菜を作りお世話や収穫を行う等、年間を通して外出機会を支援している。ドライブを企画し実施しているが、ドライブが難しい方には玄関先で日光浴をするなど可能な限り外出機会の提供に努めている。地域の行事にも本人の状態や希望を鑑みながら参加している。毎週の買い出しも利用者様の楽しみの一つとなっており、一人ひとりに寄り添った温かい支援を行っている。	
54		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理については、入居時、家族に説明している。利用者は、金銭の管理が難しい為、所持していない。必要なものがあれば、家族の面会時や受診時に伝え、購入して貰っている。		
55		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙のやり取りの支援は、いつでもできるようにしているが、現在の利用者は、自ら電話や手紙のやり取りのできる利用者が、ほとんどいないのが現状である。		
56	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の作業の継続が、年々、難しくなっている。職員が居心地の良さを工夫し、季節感を取り入れたディスプレイ等を創作し飾っている。窓際から、庭の野菜や草花などを眺めたり、食したりして、季節を感じている。庭から、キンモクセイの花の香りに包まれ秋を感じる。行事の写真や誕生会の写真などを掲示して楽しんでいる。	共用部でも衛生管理に配慮しながら、居心地の良い空間作りを行っている。空気清浄器を設置し、感染対策も行っている。外を眺めると季節を感じられるような空間となっており、花の香りでも時節を感じることができるよう工夫されている。行事の写真や手作りのディスプレイにより、明るい居室を提供している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
57		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者は、自由に場所と時間を使って、お茶を飲みながら、好きな塗り絵や歌を聴いたり、一緒に歌ったり、新聞やテレビの話題で会話を楽しんでいる。利用者同士の時間を大切にして、自室で会話したり居心地の良い環境作りに努めている。		
58	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が、使い慣れた家具や、親しみのあるものや大切なものを自室に持ち込み、身近に置いて楽しめるようにしている。誕生日に撮影した本人の写真や家族が記念日にプレゼントした造花を見ながら、思い出して楽しんで貰っている。	自身の大切なものを持ち込みされ、落ち着ける環境にて生活できるよう配慮している。ミシンを持って来ている方もいらつしやり、座布団カバーを作ったり、洋服をリノベーションしたり、ホームでも変わりなく過ごせる環境の提供に努めている。	
59		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部の随所に手すりを設置してある。フロア内は、バリアフリーで、車椅子の使用時も安全に移動できる環境になっている。利用者が、自分で出来ることを、大切にしながら、自立した生活が送れるように工夫している。		